

# 普連土学園校友会報

平成29年2月15日 普連土学園校友会発行 電話 03-3451-7700  
 第 97 号 東京都港区三田4-14-16 郵便番号 108-0073 F A X 03-3451-1959  
 責任者 富山 恵子 E-mail: friends@f-koyukai.com

## 二神桂子先生を偲び

普連土学園理事長 畠中 ルイザ

### 目次

クリスマス礼拝  
 バザー報告  
 FF倶楽部とのコラボレーション  
 校友生の礼拝  
 同窓会  
 創立記念礼拝  
 ミステリーバスツアー  
 校友会ってなに？

家の冷蔵庫にかわいい葉書きが貼ってあります。後ろ足で立っているシマリスが、タンポポを前足に持ち、それを幸せそうに食べている写真です。裏に、「二神先生の字で、Happy Easter! I am always thinking of Friends School」と書かれています。冷蔵庫を開ける度に、先生を思い出して、その言葉に励まされます。また、読んでいる本にも先生からの年賀状が挟んであります。ピアノを弾く猫のイラストの上に「A Happy New Year」と先生の字で書かれています。空き瓶の蓋にも、「杏子ジャム 2011年6月」と、先生の字で。

皆さんは、私と同じように、先生



2015年ホームカミングにて

の思い出に温かく包まれていらつしやるのではないでしょうか。

長年にわたり、普連土学園の教職員や生徒やその家族の皆さんは、二神先生の限りのない親切さに恵まれていました。お忙しい毎日にもかかわらず、先生はいつも時間をとって人の話をじっくりと聞いてくださいました。外国でご自分の子供さんたちを育てる経験があった二神先生は留学生と外国人教師にいつも声を掛けてくださり、優しく励ましてくださいました。そして、生徒たちといつも温かくかわり、生徒の気持ちを担当によく理解していらつしやいました。先生ご自身から聞いた話ですが、小さい頃の先生はおてんばさんだったそうです。I was a real tomboy. とおっしゃいました。このためでしょうか、生徒を注意する時の二神先生の目には、いつも何かとても温かいものがありました。

学校の100周年の時からかわ

り始め、退職後まで、二神先生は加納悦子先生と一緒に写真の整理をずっとし続けてくださいました。25年間ものこの奉仕のお蔭で、史料室にある大事な写真はまとまり、学校の歴史が鮮やかに再現されました。

また毎年、春先に二神先生は Quaker Lady という手に入れにくいお花の苗をさがし、それをたくさん運んできて、新人生への贈り物として学校の花壇にご自分の手で植え替えてくださいました。長年、中一の担任として、そして教頭として仕事をなさった先生はフレンドのこの伝統をお一人ですべていらつしやいました。考えてみれば、二神先生はこのお花と同じような存在でした。冬の終わりの冷たい風が吹くとき、静かな優しさに溢れた先生はいつも私たちを励ましてくださいました。今年の春は、

学校の花壇は寂しくなりそうです。家の冷蔵庫に残っている先生からの最後のジャムは、いつも頂く気持ちになるでしょう。



皆様は、アメリカのベストセラー作家で海洋生物学者でもあったレイチエル・カーソンの『センス・オブ・ワンダー』という本をご存知かと思えます。そこには、アメリカ北東部メイン州の原始林と荒磯の自然の中

## 校友会クリスマス礼拝

12月10日(土)

# クリスマスの不思議

ルカによる福音書2章15~20節

元普連士学園非常勤講師

伊藤 文枝 (66回生)

感動する心を育てる大切さについて語っています。

そこで今日私がお話ししたいのは「クリスマスの不思議」ということです。

どうして二千年以上も昔に、ユダヤの小さな村ベツレヘムの家畜小屋で生まれた赤ちゃんイエスと名づけられたこの男の子の誕生を、世界の人々が大切な事としてお祝いするの



でしようか。何故、この子の誕生がベツレヘムの野に居た羊飼達に最初に知らされたのでしょうか。何故、東方の博士たちは宝物を持って遠い異国の地に旅立ったのでしょうか。そしてこの赤ちゃんは一体どうい方向なのでしょう。神さまのなさる事のご不思議さに驚きをおぼえます。

さて、ベツレヘムの野に居た羊飼

い達とはどういう人達なのでしょう。羊飼いと聞くと私達はのどかな牧歌的雰囲気を感じますが、その当時は大変厳しい仕事でした。暑い夏、寒い冬も毎日風雨に耐えながら野外で暮す仕事です。その生活は貧しく、底層階級「地の民」と呼ばれていました。かつてユダヤ人が遊牧民族だった時代には大切な仕事でしたが、パレスチナに定住するようになり農耕や商業が主体の社会に移っていくうちに、彼らは軽んぜられ職業的にもユダヤの律法を守れない人々として差別を受け、ユダヤ社会から疎外されたのです。その羊飼達にイエスの誕生の知らせが真先に届いた事は意味深い事です。

この知らせを受けた彼らの反応はどうだったのでしょうか。彼らは「主が知らせて下さった事を見よう。」と急いで行って捜しあてたのでした。

このクリスマスの時私達も彼らのように、「この出来事を見よう。」と馬ぶねのイエス様に近付いて行くことが出来たら、どんなに幸いでしょうか。何故なら、この赤ちゃんこそ救い主だからです。クリスマスのご祝福が皆様に豊かにありますように。

## 親睦会

今年のクリスマス礼拝には校友生の他後援会FF倶楽部のご父兄も参加なさいました。A音楽室での礼拝の後生徒ホールに移動して親睦会が開かれ、お子様連れの方や卒業以来初めて参加なさった方など106名のとても賑やかな会となりました。紅茶とサンドウィッチやお菓子を頂きながらコーラス部の方々のトナカイのコスチュームにダンスまでついているクリスマスキャロルを聴き、全員で讃美歌を歌いクリスマスをお祝いました。伊藤先生のお言葉「すぎゆく今年に感謝し来年に思いを馳せながら」帰途につきました。



久しぶりの再会におしゃべりもはずみ…

で瑞々しい感性で世界の神秘にふれる幼い甥ロジャーと感動を分かち合う姿が美しい詩情豊かな文章で書かれています。この本を通して作者は美しいもの、未知なもの、神秘的なもの、その不思議さに目をみはる感性・

# バザー

## 今年も大盛況

11月12日(土)、後援会(在校生の保護者の会)と共催のバザーが行われました。前日の雨にもかかわらず、当日は晴天に恵まれ、1144名ものお客様が来場くださり、167名の校友生がお手伝いくださいました。

一生懸命買い物をする方、懐かしい同級生や先生と再会し楽しそうにおしゃべりする方など、たくさん笑顔があふれる一日でした。

また今年も、熊本地震の支援のため、熊本の商品を委託部で販売し、たくさんの方にお買い求めいただきました。ありがとうございました。



65・66 回生の委託売場

### 参加した校友生の声

・卒業してまだ半年ですが、久しぶりに学園に帰ってきた感じがします。のんびり安心できます。先生方にも会えて嬉しいです。(123回生)

・ガレットやクッキーは20数年たっても変わらずあるのが懐かしかったです。(98回生)

・初めてバザーのお手伝いをしました。お客様との会話が楽しく、また学園自体が懐かしくて、楽しい一日でした。(96回生)

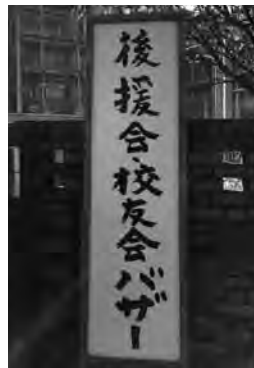
・卒業以来初めて参加しました。自分たちが生徒だった頃には考えられないほど、お父さん達がお手伝いをしていてとても驚きました。普連土グッズがたくさんあることも初めて知りました。(94回生)

・10年以上毎年手伝いとして来ています。毎回違う売り場を担当するので、他の学年の方々と知り合いになれてう



現役生もお買い物

れしいです。(72回生)  
・久しぶりに参加しました。とても賑やかで、どの売り場も商品が多くてびっくりしました。(65回生)



### 校友会バザー委員長からのご挨拶

77回生 谷口栄弥子  
アクセサリー・手芸・献品・奉仕・委託と、どの部も一年にわたり、準備をまいりました。バザーはお祭りであり、お客様もお手伝いの方々も楽しく過ごし、学園にも貢献できる素敵な催しです。

この度の開催にあたり、皆様のご支援に深く感謝するとともに、来年度に向けてさらなるご協力をお願い申し上げます。

## 2016年度 バザー売上報告書

2017年1月21日  
単位：円

摘要	売上	仕入	収益
ア ク セ サ リ ー	143,950	0	143,950
委 託	1,871,577	1,422,824	448,753
献 品	297,714	0	297,714
手 芸	498,961	45,421	453,540
総 務	24,400	0	24,400
合 計	2,836,602	1,468,245	1,368,357

### 奉仕部

単位：円

社会福祉法人かがやき会就労センター街(クッキー・ラスク)	27,800
特定非営利活動法人STORY(石鹸2種類・メッセージカード)	18,600
社会福祉法人東京都知的障害者育成会 大田区立くすのき園(刺繍雑巾)	3,000
いきいき福祉ネットワークセンター(キーホルダー・缶バッジ)	2,900

合 計 52,300

## 校友会とFF倶楽部のコラボレーション 校友会副会長 松浦 栄子

10月8日(土)に中学校校舎で校友会とFF倶楽部のコラボレーション企画が催されました。テーマは「普連土学園の故きを温ねて新しきを知る」。

FF倶楽部の「FF」とは、「Friends Family」の略で、娘の成長を見守りたいという普連土学園の保護者がとても気楽に、少しまじめに、そしてマイペースで活動するサークルだそうです。(FF倶楽部案内より) 今回の催しは、校友会幹事であり、FF倶楽部の会員でもある95回生・浅見裕子さんの橋渡しで実現しました。

82回生 寺山由美子さん、89回生・進藤玲子さん、100回生・吉田さやかさんという年代の違う3人の校友友が登壇しそれぞれが、普連土時代の思い出の写真を見せながらの自己紹介で会は始まりました。

普連土で毎週行われている「沈黙の礼拝」に話題が移り、普連土にいると当たり前である「沈黙」という時間は、他にはないものだろうというのと、一般には目に見えるものではないが、普連土学園で学んで

目に見えないものを信じられるようになった、これは卒業生にしかわからない感覚かもしれないという意見が出され、共にこれが「普連土らしさ」といえるのであろうと一同が納得しました。

その後、話題は、昔あった給食について、山中湖寮での生活について等々、多岐にわたりました。

参加の保護者からの質問には、登壇者だけではなく富山会長や山本副会長からも興味深い話が出ていました。

私達校友生は普連土学園の良さを再確認できましたし、FF倶楽部の皆様の普連土愛の深さに温かい気持ちになることができた第一回コラボ企画でした。



## 校友生による全校礼拝

富山恵子会長

毎年11月の火曜日に、全校礼拝で校友生にお話ししていただいています。昨年も3人の校友生にお願いしました。

### ◆8日 押尾雅代さん(96回生)

普連土学園卒業後、大学進学はせず、大好きなスキーを活かした仕事をするためスイスにある旅行会社にスキーガイドとして就職した。そして現在はスイス政府観光局に勤務しており、今まで多様な業務に携わってきた。

全てのことには時があり、その時、そのチャンスを活かすには選択する勇気が必要であり、人生は一生勉強であることを実感している。

### ◆15日 深野泰子さん(96回生)

大学卒業後、ミュージカルの舞台に立つべくオーディションを受け続ける。ついにはNYに渡り、「王様と私」のオーディションに合格し、NYでミュージカルの舞台に立つ。9・11のテロに遭遇し帰国。その後劇団四季の舞台に立つ。普連土生の時からミュージカル俳優になりたく

て夢を追い続け、多くの困難を乗り越えてきたが、いつも心にあったのは「求めよ、そうすれば与えられるであろう。…」の聖句であった。思い返すと「目標を達成する底力」を普連土の先生方はつけてくださったように思う。門をたたき続ければ、必要なタイミングで神様はチャンスを与えてくださると思っている。

### ◆29日 中川恵理子さん(101回生)

現在は、日本にあるオランダのマーケティング会社の財務部長として仕事をしている。今日は普連土学園の生徒であった頃の自分にメッセージを送るつもりで、3点皆さんにお話ししたい。

第一は多くの人との出会いが大切である。特に価値観の異なる人との出会いは、世の中を知ることができ

る。第二は好きなことを仕事にすることがベスト。好きだと思うことを早く見つけて欲しい。

第三は好きなことをしている自分を探し求めている人や場を探すこと。人から必要とされる存在になり、必要とされている場でベストを尽くし、世の中のためになることが大切である。



# 同窓会をひらきまし

122回生  
成人を祝う会

た。それぞれの振り袖姿はとても美しく、まるで色とりどりの花が咲い



1月9日(月) 品川プリンスホテルにて

ているようでした。2年間という短い間でかくも艶やかに美しく成長した同窓生たち。しかし、話してみれば、根幹は変わっておらず、それぞれが思い思いの未来を描き、邁進している様子が感じられました。

温かい普連土学園の元でのびのびと育てられた122回生は、成人式を迎えまし

学園生活に戻ったような楽しさを感じつつ、皆の将来に期待が膨らんだ1日でした。 澤茉莉

久々に懐かしい友人達と会い幸せな時を過ごしました。皆華やかな衣装に身を包みながらも、飾らない人柄や芯の強さは中高時代と変わりなく、とても安心しました。普連土学園で過ごした日々はそれぞれの人生の心の支えとして、これからも私たちの中に存在し続けることでしょう。この日を大切な仲間と共に迎えられることに感謝し、今後は一人の大人として自分の人生に向き合っていきたいと思います。 蒲生夏菜

生憎の雨に見舞われた成人式でしたが、午後から行われた同窓会の際には、幸い天気も回復していました。朝から袖を通したままの着慣れない衣装にぐったりと疲れていた顔が、親しい友人や、卒業以来の懐かしい顔に再会するたび、嬉しそうに輝きます。華やかな振り袖姿も、100人を超えるという圧倒されてしまいました。成人式を迎え、大人としての自覚や責任が求められることになる我々ですが、こうして、ときたま集まっては、母校で過ごした時間に戻ることができたらと思います。 石井温子

98回生

7月9日(土)、卒業25周年を記念して校友会室に集った98回生は

なんと56名！高3時に担任をしてくださった浜野先生・宮武先生・井畔先生にもご参加いただき、大変にぎやかに楽しい時間を過ごすことができました。先生方のご挨拶では温かいお言葉に懐かしさを覚え、56名全員の近況報告ではそれぞれが磨き上げてきた人生に感嘆。仕事や子育て、趣味などに励む姿にたくさんさんの刺激をもらうことができました。

次回は2018年のホームカミングデーで！多くの先生方や同窓生にお会いできることを今から楽しみにしています。

地曳久美子(旧姓：疋田)



108回生

10月29日

(土)にフレンズセンターで開かれた「佐藤英美子先生(99回生)を偲ぶ会」の後、108回生

同窓会を行い、34名の同窓生が校友会室に集いました。子連れで参加した同窓生も多く、賑やかな雰囲気での同窓会となりました。

お互いの近況や、学園での思い出話に花が咲き、時間が経つのはあっという間でした。佐藤先生が今回こうして集う機会を下さったのだと感謝すると同時に、この繋がりはこれからも大切にしていかななくてはならない、必ずまた集まろうと誓い合いました。

この場をお借りして、偲ぶ会を主催して下さいました99回生の方々、同窓会にご参加下さった浜野先生、原田先生、同窓会をサポートして下さいました校友会にお礼を申し上げます。

武藤知子(旧姓：溝田)



出版委員として、昨年の創立記念礼拝に出席いたしました。卒業後、私にとって初めての学園での礼拝で、早朝の講堂（現新渡戸稲造ホール）に足を踏み入れると、在校時代に戻ったような不思議な気持ちになりました。

創立記念礼拝は9月29日（木）、在校生のピアノ演奏に始まり浜野校

## 創立記念礼拝に出席して

94 回生 渡邊 美羽



浜野先生・森周子さん・畠中先生

長の司会による礼拝に続き、校友生の森周子さんが「普連土学園とわたし」というタイトルで講演をなさいました。

101回生である森さんが、在校生へ向けて、ご自身が高崎経済大学地域政策学部准教授になるまでのエピソードを楽しくお話しくださいました。普連土学園在校中はどのような

生徒だったか、大学や専攻科目の選択に至った経緯、ドイツ留学や帰国後の大学院進学時の決断のお話について、埼玉県内の私立大学への就職、佐賀県の国立大学への転任、そして現職へと至る経緯の合間には旦那様との馴れ初めなども交えての講演。在校生の時には笑い声をあげながら森さんのお話に聞き入っていました。

講演の最後は在校生への言葉として、「マイペースで地味な私でしたが、普連土学園の先生方は個性を尊重してください、その有難さをあらためて実感しています。個性を磨くことで開花するのですから、皆さんも今のままでいることの大切さについて気が付く時が来ます。変わろうとしなくても大丈夫ですよ。」と優しく締めくくって下さいました。

在校中は時間管理の大切さも学んだと話す森さん、講演時間を気になさず「あと5分ですね。」「もう終わりですから。」と腕時計をご覧になりながらの約45分間の講演でした。

礼拝の最後は校歌。何十年も歌っていないくてもすんなり歌えるものなのです。本礼拝に出席できたことに感謝しております。



10月4日（火）いよいよ不安と期待が一杯の35名を乗せてツアーが始まった。雨の日が続いた中、この日は突然雲一つない快晴で30度の真夏日になった。

バスは関越道をひた走り、鶴ヶ島インターを降りて走り続けると、閑な田畑の真ん中に忽然と絢爛豪華な極彩色の竜宮城のような建造物が現れた。それは「聖天宮」という台湾の宗教の一つ、道教のお宮だった。台湾の大法師が不死の病から一命を取り止めた時に見た夢のお告げにより生国台湾でなくこの坂戸の農村地帯に建立した。黄金に輝く屋根には火を噴く龍が昇り、楼閣から望むお宮の荘厳さに圧倒された。

再びバスは田園風景の中を走り、鬱蒼とした木々の中に佇む優雅な純日本風の邸宅に着いた。

日興証券の創立者東山元一が没落した生家を再興させ、そして母親の安住の住まいとして建てたものである。全国各地の銘木を集め、一流の職人の技で贅を尽くした作りである。三棟で構成され、豪農風、武家風、数寄屋作りと様式を異にする。元一の六つの重要文化財を含む収蔵品を展示する美術館も併設されている。

次の停車は江戸時代城下町として栄えた川越だった。丁度昼時になり、和食処「初かり亭」で昼食をとった。食後は耐火建築として建てられた有名な蔵造りの町並みを歩いた。江戸の雰囲気十分である。百年以上経った今も時を告げている川越のシンボル「時の鐘」を見、昔懐かしい駄菓子屋が軒を並べる「菓子屋横丁」を散策した。川越まつり会館には華やかな巨大な山車が展示されていた。

川越城本丸御殿等川越は多くの歴史的文化的遺産を持ち、何処を歩いても楽しめる観光地である。

今回は日本の貴重な文化財だけでなく、とてもミステリアスな異国の建築物や文化財も鑑賞させてもらい記憶に残る素敵な旅だった。



川越の町並み

## 普連土たより 学校近況

百六十八信

9月29日の創立129周年記念礼拝では、高崎経済大学准教授で101回生の森周子さんが「普連土学園とわたし」と題して、学園で学んだことは、忙しい生活の中で時間管理の仕方と一人一人の個性を尊重することの大切さであり、この二つは卒業後から現在に至るまで自分の生活に非常に役に立っていると自らの学園生活を振り返りながら話してくださいました。

第54回学園祭（10月21・22日）のテーマは「Planet〜輝く惑星〜」でした。これは、それぞれ異なる惑星が、太陽を軸として秩序正しく回転を続けているように、生徒一人一人の個性はそれぞれ違っても、互いを尊重しつつ学園祭の成功という目標のために協力しあっている姿を象徴しています。家族公開日、一般公開日ともに天候に恵まれ、多くの来校者を迎えることができました。

11月12日には後援会・校友会共催のパザールが開かれました。当日の天気は晴れで、多くの在校生やその保護者の皆様に加えて、校友生や受験生が来校され大盛況でした。皆様の御協力と御支援で無事終了すること

ができましたことを心より感謝申し上げます。

11月24日には宗教講演が行われました。今年度のテーマは、大阪大学言語文化研究科に所属しクエーカーであるジェリー・ヨコタ教授による「宗教と霊性 ネルソン・マンデラに学ぶ」でした。

ヨコタ教授は、ご自身のマンデラ氏との出会いや、通訳を務めた際に身近に接した経験をもとに、彼の生涯と南アフリカの歴史に触れつつ、その人間性と霊性について、南アフリカ国歌の成り立ちや映画「マンデラ自由への長い道」の二つの場面、聖書（コリントの信徒への手紙一）等を示しながら、最も霊性を感じる人は、自然に聖書の言葉を行動にあらわすようになるとして、マンデラ氏はまさにこのような人であったと生徒に語りかけてくださいました。

12月になり、講堂にはクリスマスツリーが飾られました。学園では、クリスマスの本当の意味を考えるために、クリスマス献金やプレゼント集め、五日間の特別礼拝を行い、22日にはクリスマス礼拝を迎えました。（大井 治先生記）

## 八十歳になりました

傘寿を迎えられた校友会の方々に、浦口先生が書かれた絵葉書セットをお祝いにお贈りしました。何人かの方々からお礼と昔を懐かしむお便りをいただきました。御礼のお手紙の一節をご紹介します。

▲芋名月も残念ながら雲のかげでしたが、季節は止むことなく過ぎてまいります。私もいつの間にか傘寿を迎えることが出来ました。このたびは素晴らしいプレゼントを頂戴し舞い上がる喜びでした。

▲「野の花」の絵葉書ありがとうございます。浦口先生には高1の時に担任していただきました。妹さんのツタ先生にも中2のとき英語の授業をしていただきました。

▲贈り物本当にありがとうございます。日々浦口先生のお優しいお顔を思い浮かべ過ぎております。

▲浦口先生の自然を愛するお心が野草の描写によく現れた素敵なプレゼントが届き、懐かしい思い出にしばしふけりました。大切にいたします。有難うございました。

### ◆お便りを下さった方々（敬称略）

岡村由子 加納香代子 北原三枝子  
森邦子 山香雅子 和田正子



普連土学園校友会とは普連土学園卒業生の会です。卒業生は皆、校友会会員となり校友生と呼ばれます。校友会の目的は会

員同士の親睦と学園への支援のため様々な行事や活動を行うことにあります。

活動はかなり活発で、パザール、クリスマス礼拝、音楽会、勉強会、バスツアー等の行事や、聖書の会、コーラスや手芸等の趣味の会もあり、先輩後輩が集い、親睦を深め、楽しみながら学び、そして学園の発展を支援しています。

より多くの校友生（卒業生）が、まるで故郷に戻るような安心感の中で校友会の活動に参加して下さることを常に願っています。

でも、校友会って、何にどう参加したらよいのか、会報やホームページを見てもし遠い存在に感じる、という声を沢山いただきます。そんな方々にも、分かりやすく、身近に感じていただけるよう、これから校友会の実情をお知らせしていきます！

次回（17年7月発行）は、校友会事務所についてご案内いたします。



# 校友会だより

## ◆校友会総会のお知らせ

2017年度の校友会総会を左記の要領で開催します。

日時 2017年6月3日(土)  
11時～

会場 普連土学園新渡戸稲造ホール／ローズホール

第一部は礼拝と校長先生の学校報告の後、事務会を行います。事務会の主な議題は2016年度の年次報告と決算、2017年度の年次計画と予算案です。事務会の後の催し物は準備中です。

第二部はローズホールで昼食、歓談とコーラス、校歌で閉会します。

## ◆ホームカミングデーのお知らせ

大好評だったホームカミングを今年も左記のように開催します。

対象回生 97・102・107回生  
開催日 3月25日(土)11時～16時

会場 ローズホール

昨年は浜野先生の礼拝や小澤先生の指揮で合唱したり在学中の映像上映、授業を再現して宮武先生の「中東の紛争」についてのお話等當時を思い出すひとときを持ちました。今

年のホームカミングも楽しい企画が盛り沢山ですので是非多くの方の参加をお待ちしております。

ホームカミングは一昨年より学校と校友会の共催で始まりました。来年度は98・103・108回生、再来年度は99・104・109回生が対象です。

## ◆2016年度分校校友会運営費

本年度分のお支払いがまだで払込伝票がお手元がない方は郵便局にある払込取扱票をご利用下さい。

口座記号 0011018

口座番号 87932

金 額 2500円 (右詰めで記入)

加入者名 普連土学園校友会

通信欄に必ず回生とお名前、ご住所をお書き添えの上お振込み下さい。

## ◆事業委員会よりお知らせ

◆映画会のお知らせ

日時 2017年2月25日(土)  
13時30分～(90分)

会場 普連土学園 A音楽室

上演作品

「復活」Risen(2016米)

皆さまのご参加をお待ちしております。(上履きを持参ください。)

◆2017年度は、ミニ・コンサート、講演会か勉強会を企画しております。

## ◆後援会からのお知らせ

◆学園主催130周年記念セントヒルコンサート

創立130周年を記念して、106回生の三ツ橋敬子さん指揮、東京フィルハーモニー交響楽団による後援会主催のセントヒルコンサートが開かれます。

日時 2017年9月29日(金)  
18時30分～

会場 普連土学園

新渡戸稲造ホール

料金 3500円

※詳細および申込み方法は、同封のチラシと申込用紙をご覧ください。

謹んでお知らせ申し上げます。心より哀悼の意を表します。

## 訃報

旧職山下	璵子(岡部)	16・6・15
旧職二神	桂子(百瀬)	16・8・15
49	前原千鶴子(奥山)	13・4・24
51	小河原義恵	16・6・29
52 B	佐野千奈(片岡)	16・2・7
52 B	奥村輝子(大澤)	16・6・21
55	掘越正子	16・2・3
56 A	太田せつ子(太田)	16・5・18
62	西元典子(川俣)	16・10・13
64	神馬とも子(井上)	16・5・29
64	森璋子(勝部)	16・6・22
101	林千香子	16・6・21
116	石山温	16・9・3

校友会より、お花とお悔みカードをお送りしています。

## 編集後記

母娘で担任だった、あるいは英語を習った、という方も大勢みられる二神桂子先生が昨夏83歳で亡くなられました。また毎年総会で温かいスピーチをして下さった山下璵子先生も昨年天に召されました。お二人とも生涯こよなく普連土を愛し、教え子を愛して下さいました。感謝してご冥福をお祈りします。

2月は入試の季節。これから普連土に入る小学生・巣立つ高校生も希望に溢れる春を迎えられますように。

(千田・田中・入江・鈴木・森本・渡邊・熊井・白井・今奈良・川上)